

1 活動名

Face Time を利用した遠隔授業

2 対象

- ・小学5年生の児童，高等部1～3年生の生徒（計13名）

3 内容と取組の様子

- ・病棟に入る教員は授業を行う担任教員と内容や支援の仕方について事前に打ち合わせを行う。
- ・病棟に入る教員は iPad とモバイル Wi-Fi ルーターを学校から持参し接続する。
- ・教員1名が病棟に入り，担任と児童生徒を結ぶ授業支援を行う。
- ・担任教員は学校からタブレット越しに絵本の読み聞かせや歌，クイズなどの児童・生徒に合わせた授業を行う。（児童生徒1名につき約10～15分間の授業を行う。）



4 使用したツール（システム・アプリ・ソフト・教材等）

- ・ iPad（FaceTime）

5 おすすめポイント

- ・病棟に入れる日数が制限されている中で，児童生徒の様子を知ることができる。
- ・遠隔授業を行う際の機器の設置方法，接続の仕方を教員全員で共通理解できる。
- ・授業を行った日は児童生徒の反応が良くなり，これからも続けて欲しいという感想を病棟からいただいている。また，病棟のスタッフの方々にも学校の取り組みを知ってもらえる機会になる。
- ・事前に打ち合わせを行うことで，教員からの一方的伝達になりがちな遠隔授業ではなく，生徒との相互的なやりとりが増える。
- ・担任以外の教員も児童生徒の実態や表出の様子を知る機会になり，支援の仕方を共通理解できる。

6 さらに工夫したいこと

- ・画面越しの授業ではできる授業内容が限られるため，常に同じ内容にならないよう工夫が必要である。
- ・児童生徒に対してどの位置に立つか，どの角度で画面を見せるか，また個別の実態に合わせた支援の仕方などについての工夫と教員全員での共通認識が必要である。
- ・ベッドで寝ている児童生徒に対しては，身体の保持や注意を向ける等様々な支援が必要なため，安全面を考慮すると教員1名では難しい面がある。
- ・遠隔授業のため応答までに時差があり，児童生徒の表出が分かりにくかったり応答のタイミングが重なったりして聞き取りにくい面もあったため，相手側の様子を伺うことが大切である。
- ・画面に提示するのは物だけが良いのか，それとも視線や表情で伝えるため教員も一緒に映った方が効果的か，また，静止画より動画が良いのかなど，児童生徒の反応を見ながらより良い教材を考える必要がある。